第１章　動詞の種類（ある，なる，する）と文型（動詞と形容詞）

▶英語の動詞は状態とか動きとか気を使わなければならないようだが，日本語の動詞といったいどこが違うのか，くわしく教えてほしい。

世界を表す英語の動詞は三種類に分けることができます。すなわち,「ある」動詞（状態動詞),「なる」動詞（過程動詞),「する」動詞（行為動詞）です。これらの動詞はおたがいに重なっている部分があります。たとえば be には「ある，なる」，make には「なる，する」の両方の意味があります。

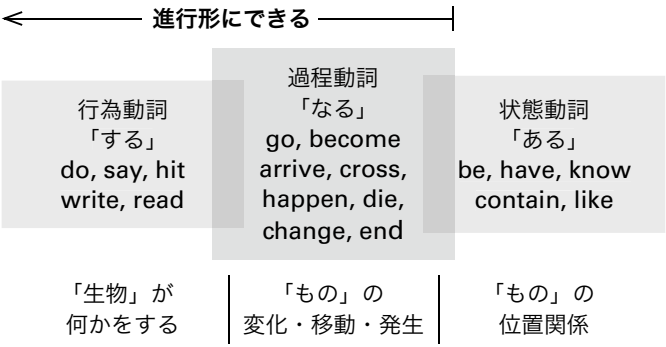
I **am** a man.「私は男で**ある**」（**状態動詞**）

I'll **be** an interpreter.「私は通訳に**なろう**」（**過程動詞**）

He'll **make** a good husband.「良き夫に**なる**だろう」（**過程動詞**）

She'll **make** a good pie crust.

「おいしいパイ皮を**作る**だろう」（**行為動詞**）



a.「ある」動詞：be, have, know（「～にある」や,「～である」を表す）

I **am** in my room.「私は自分の部屋**にいる**」

⇒空間の位置を表す

I **am** in good condition.「私はいい状態**にある**」

⇒抽象的な位置，すなわち，性質や状態を表す

There **is** a show in the room.「ショーがその部屋**である**」

⇒ in the room は位置を表す

b.「なる」動詞：go, become（生物や物が位置や状態を変える）

She **came** from Gifu. ⇒岐阜からの位置の変化

She **became** sick. ⇒病気への状態の変化

c.「する」動詞：do（生物である行為者があることをする）

He **cooks** every day. ⇒動作

He **opened** the door ⇒動作

1. Be 動詞のさまざまな意味

▶ be 動詞もいろいろと意味があってややこしい。
I'll be home. が，なぜ「戻ってくるよ」になるのか？

be 動詞には「ある」と「なる」の二つの意味がありますが,「なる」には，状態の変化だけでなく，位置の変化もあります。次の be 動詞は位置の変化，すなわち come を表しています。

I'll **be** home. = I'll **come** home.

「すぐ戻ります」は I'll come back soon. でなく I'll be back soon. と言うことが多いのです。

参考 be 動詞の意味は二つあります。A.「ある（状態）」と B.「なる（変化）」です。「ある」には，数学の記号＝にあたる「である」と存在を表す「にある」の二つの意味があります。次の例文を見てください。

A. ある（状態）**「である／にある」**

a. I **am** a loser.（僕は敗北者**である**：I = a loser.）

b. There **are** bells on a hill.（鐘が丘の上**にある**）

B. なる（変化）…**状態の変化**「になる，起こる」／**位置の変化**「行く，来る」

c. There will **be** a wonderful show at this hotel.

「すばらしいショーがこのホテル**である**」

d. I want to **be** a paperback writer.「作家**になり**たい」

e. I'll **be** home, my darling. Please wait for me.

「家に**帰る**からね。待っててね」

f. I've **been** to Hollywood.

「ハリウッドに**行っ**（て**来**）**た**ことがある」

▶～の場所「にある」と「である」ではどう違う？

次の 2 つの文は文型は同じですが，be 動詞の意味が違います。日本語では，その違いを「に」と「で」で表します。「**に**あった = 存在した」と「**で**あった = 起きた，開かれた」です。

この be 動詞の意味の違いは，a bell が物であり，a show が出来事という違いから生まれます。

There **was** a bell in the room.

「ベルがその部屋**にあり**ました」

There **was** a show in the room.

「ショーがその部屋**であり**ました」

▶「〜になる」に become と be とではどう違う？

「作家**になり**たい」は，英語では，I want to become a pilot. と言うよりは, I want to be a pilot. と言うことのほうが多いです。be は「〜になる」という「**結果の状態**」が強調されるのに対して，become は「だんだん〜になる」という「**過程**」が強調されます。

She **was** able to run again.

「また，走れるようになった」

He **became** able to run again.

「走れなかったのがまた走れるようになった」

2. 状態動詞…「〜している，ある」（be, have, know, love, contain, resemble...）

▶ know の意味は「知る」か，「知っている」か？

know は「を知っている」という意味の状態動詞です。日本語は「いる, ある」をつければ, ほとんどの動詞が状態動詞になります。

You **know** my name.「君は僕の名前を知っている」

She **loves** you.「彼女は君を愛している」

This box **contains** books.「この箱の中には本が入っている」

He **resembles** his father.「彼は父親に似ている」

The river **runs** / **flows** through Osaka.

「その川は大阪を流れている」

英語の動詞と日本語の動詞との最大の違いは，英語には状態動詞がたくさんあるのに，日本語には下のように状態動詞が極めて少ないということです。少なくても困らないのは，**日本語では「〜している」をつけることによって動詞は状態を表す**ことができるからです。

日本語の状態動詞：ある，いる，できる

英語の状態動詞：be, have, know, love, contain, resemble 等**多い**

▶ 次の文はどう違うか？

a. The river runs through our town.

b. The river is running through our town.

この文で使われている run は flow と同様，状態動詞なので，a. は現在形で「流れている」という意味です。

川の水は，一回流れて終わるわけではなく絶えず流れつづけるから，**run** や **flow** は進行形にしません。この文を次のように進行形にすると，その川が洪水などのために**今その時だけ**その町を流れている，という意味になります。

The beautiful river **runs** through our town.

「その美しい川はずっとわが町を流れています」

The polluted river **is running** through our town.

「その汚染された川は，今はわが町を流れています」

次の **run** も動作ではなく，状態を表しています。

This road **runs** through the woods.

「この道は森の中を通っている」

3.「する」行為動詞　（自動詞と他動詞）

▶ SVOC に悩まされました。もう一度説明してほしい。

ここで，学校で習った 5 文型の記号も復習しましょう。しかし，あまりこだわる必要はありません。こだわると 5 文型は 7 にも 8 にもなってしまいます。

S…主語（subject）：文の中で「～は／～が」にあたる語。

V…動詞（verb）：文の中で主語について述べる状態や動きを示す語

O…目的語（object）：動詞が表す状態や動きの対象となる語。二つある場合は，前に来る語が「～に」後に来る語が「～を」を表す。

C…補語（complement）：主語や目的語がどんなものか，どんな状態かを補う語。

M…修飾語（modifier）：上記の SVOC を修飾して意味を加える語。なくても文は成り立つが，「**なくてはならない副詞（句）**」もあるので注意。（p.9 参照）

▶ **次の二つの文はどう違うのか？**
a. Jack called to Jill.
b. Jack called Jill.

a. の call は自動詞で「ジャックはジルに呼び掛けた」という意味で，b. の call は他動詞で「ジャックはジルを呼んだ」です。**自動詞より他動詞のほうが目的語への働きかけが強い**と言えます。

「状態動詞（ある，いる）」にも自動詞と他動詞の違いがありますが，次の文で「状態動詞」の他動詞 contain や resemble が目的語 books や his father に働きかけをして変化を与えるということはありません。（p.101 参照）

This box **contains** books.「この箱には本が入っている」

He **resembles** his father.「彼は父に似ている」

一方，「行為動詞（する）」の場合には，次に来る目的語に対する働きかけの度合いが，間におかれる前置詞の有る無しによって変わ

ります。自動詞は**前置詞がクッション**になり目的語への影響力が他動詞の場合より弱いです。つまり，質問の二つの文の場合，Jill が振り返る可能性は b. より a. のほうが低いということです。

a. 自動詞

① Jack called.「ジャックは叫んだ」
S　V　⇒叫んだだけで誰に呼びかけているのかわかりません

Jack called to Jill.「ジャックはジルに呼びかけた」
S　V　M ⇒ to というクッションがあるので声が届いたかどうかはわかりません

② Jill was silent.「ジルは黙っていた」
S　V　C ⇒ silent は主語 Jill を補う語。Jill=silent な状態

b. 他動詞

③ Jack called Jill.「ジャックはジルを呼んだ」
S　V　O ⇒彼女には声が聞こえ反応があることが予想されます

④ Jack called Jill a taxi.
S　V　O　O ⇒「誰に」「何を」という二つの目的語
「ジャックはジルにタクシーを呼んであげた」（Jill ≠ a taxi）

⑤ He called her Jillian.「彼は彼女をジリアンと呼んだ」
S　V　O　C ⇒ Jillian は目的語 her を補う語。her=Jillian

動詞は大きく分けて，自動詞と他動詞の二つの使い方があります。上の例文では，文型①から文型⑤へ降りるにしたがって動詞は自動詞から他動詞になり，より多くの語句を従えて，主語が働きかけるもの「目的語」への力が強まってゆくのがわかります。**自動詞**は目的語なしでも成り立つので，**目的語に対するつながりを示すために，**

前置詞を間に置くのです。一つの動詞で自動詞と他動詞と両方の使い方がある場合は，前置詞は**クッションの役割**を果たし，動詞の働きかけを間接的なものにします。

▶次の三つの文はそれぞれどういう意味か？
a. The plants grew well.
b. My mother grew old.
c. She grew tomatoes.

以下のようになります。

a. The plants **grew** well.「植物がよく育った」
S　V（過程動詞）　M（副詞「よく」

b. My mother **grew** old.「母は年老いた」
S　V（過程動詞）　C（形容詞）⇒ My mother=old

この grow は「になる」という意味で，補語 C に来るのは，cold，dark，loud，old，tall などの形容詞です。

c. She grew tomatoes.「彼女はトマトを栽培した」
S　V（行為動詞）　O

a. の well は副詞ですが，次のように「健康な」という意味で形容詞としても使われます。

d. She got **well**.「彼女は元気になった」
S　V（過程動詞）　C（形容詞）⇒ She=well

▶次の二つの文の there は副詞なので「修飾語」なのか？
a. He stayed there.
b. He stopped there.

学校文法によれば，a. も b. も同じ文型で，stayed と stop にかかる there は修飾語であると考えられますが，a. は there を取り除くと意味が不完全になります。stay は自動詞であっても「どこに」という場所を表す副詞が必ず必要です。一方，b. の stop は there を取り去ってもかまいません。

× He stayed. ⇒場所の副詞がないと意味が不十分
○ He stopped. ⇒このままで文は成立します

次の文 c. も on the desk は**なくてはならない副詞句**で，ないと意味が不十分です。「彼がそれを置いた」のはどこなのかを明らかにする語句を置かねばなりません。一方，d. は，on the stage を取り去ってもかまいません。

c. He put it **on the desk**. ⇒下線部を省くと意味が不十分
d. He sang it (on the stage). ⇒下線部は省いても OK

▶「なくてはならない副詞句」の見分け方はどうするのか？

「なくてもよい修飾語」は文頭に移動してもかまいませんが，「なくてはならない副詞句」は文頭に移動できません。次の文では，下線部「大阪で」が「なくてはならない副詞句」です。

I lived in Osaka in those days.「当時は大阪に住んでいた」
× In Osaka I lived in those days.
「？大阪では当時に住んでいた」
→ (In those days) I lived in Osaka.

次の例では，on the desk は文頭に移動できませんが，on the stage は文頭に移動できます。

× On the desk he put it.

cf. (On the stage) he sang it.

4. 形容詞の文型

▶形容詞の文型にはどんなものがあるか？

形容詞を含む文型には以下のようなものがあります。

a. 形容詞＋不定詞

He is **wise** to do so.「そうするとは彼は賢明だ」

He is **hard** to please.「彼は気難しい」

He is **likely** to succeed.「彼は成功しそうだ」

b. 形容詞＋前置詞句

I'm **good** at English.「英語が得意だ」

I'm **afraid** of dogs.「犬が恐い」

c. 形容詞＋ that 節

I' m **sure** that he will succeed.「きっと彼は成功するだろう」

It is **certain** that he will succeed.「同上」

d. 形容詞＋ whether

I'm **doubtful** whether he will succeed.

「彼が成功するかどうか疑わしい」

It is **doubtful** whether he will succeed.「同上」

参考 不定詞を伴う形容詞の構文は複雑で，とてもすべてをくわしく説明できませんが，上の例文 a. は以下のように書き換えることができます。

It is wise of him to do so.（p.96 参照）

It is hard to please him.（p.97 参照）

It is likely that they will succeed.（p.57 参照）